

さらなる安全運転に努めます

美郷町役場がシートベルト着用モデル事業所に指定

大仙警察署と大仙地区安全運転管理者協会が実施している「シートベルト・チャイルドシート着用推進運動」の一環として、美郷町役場が7月17日に「全席シートベルト着用モデル事業所」として指定されました。大仙警察署交通課長から指定書が交付されると、町安全運転管理者である武田総務課長は「職員一丸となり全席シートベルト着用はもちろんのこと、事故の無いよう努力することを誓います」と、安全運転に努める決意を述べました。



大迫力の演奏!

海上自衛隊東京音楽隊コンサート

「海上自衛隊東京音楽隊」によるコンサートが7月19日に美郷町公民館で開催されました。400席の観覧席がほぼ満員となった当コンサートは、華やかな喜歌劇「軽騎兵」序曲で幕を開け、『天空の城ラピュタ』Highlights』『宇宙戦艦ヤマト』など、聞きなじみのある曲も多数演奏されました。力強く響きわたる音楽の迫力に会場は魅了され、終演後もアンコールの声が尽きない大盛況のコンサートとなりました。



各界のスペシャリストから学ぶ

美郷カレッジ ～共通テーマ【新】しん・あらた～

各界の第一線で活躍されている方々を講師にお招きする美郷カレッジ(全4回)の第1回目と第2回目が7月26日と8月2日にそれぞれ美郷町公民館で開催されました。第1回目は日本航空株式会社執行役員の西原口香織さんが『わたし』の活躍が多様な価値を生み出す』と題して講演し、「ダイバーシティ(多様性)&インクルージョン(受容性)」をキーワードに女性活躍に立ちちはだかる課題について話しました。講演では、日本航空株式会社の取り組みに加え、ご自身の経験も紹介しながら「女性活躍が男性を含めた全社員の活躍に繋がる」としました。

第2回目は元内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局長の吉川浩民さんを講師とし、「DXによる持続可能な地域社会づくり」と題した講演が行われました。吉川さんは、人口減少による地域課題に対して「ちょっとしたアイデアやデジタル技術の活用で地域社会の暮らしが良くなる」と話し、DX(デジタルトランスフォーメーション)により課題解決に繋がった全国の先進事例を分かりやすく紹介しました。講演の最後には「皆さんの力と地域全体でふるさとの可能性を高めていきたい」と結びました。



■西原口香織さん



■吉川浩民さん

夢限～このまちと、この仲間と、誇れる私たちへ～

二十歳の集い

20歳を迎えた方々を対象とした「二十歳の集い」が、8月15日に美郷町公民館で開催されました。当日は華やかなドレスやスーツに身を包んだ出席者116名が、旧友との再会を喜び合いました。第一部の式典では出席者を代表して山崎暖音さんが、当時のコロナ禍による制限がかけられた学校生活を振り返りながら「我らが故郷、美郷への誇りを胸にそれぞれの場所でそれぞれの道で成長し、自分の役割を全うすることで、いつの日か成長した姿で再会できることを願います」と述べました。

第二部ではブラボー中谷さんによるマジックを交えた講演や実行委員会の皆さんが制作した記念映像の放映が行われ、会場は大いに盛り上がりました。



■山崎暖音さん



MISATOPICS

町の話題

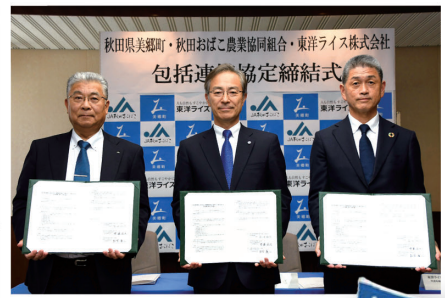


東北地方で初となる「金芽米」活用事業を展開

JA秋田おばこ・東洋ライス株式会社と 包括連携協定を締結

8月19日、町はJA秋田おばこ、東洋ライス株式会社と包括連携協定を締結しました。本協定によりJA秋田おばこが集荷した美郷町産「あきたこまち」を東洋ライス株式会社の独自の精米方法により加工した「金芽米(きんめまい)※1」を活用した事業に取り組むほか、農業振興に取り組むことにより、地域の発展等に寄与することを目的としています。「金芽米」を扱う具体的な取り組みは、学校給食での提供、道の駅美郷や美郷屋での店頭販売、町ふるさと納税返礼品などを予定しています。

※1 「金芽米」は東洋ライス株式会社の独自の精米方法によって、白米では精米の段階で取り除かれている栄養成分と旨み成分が多い「亜糊粉層」と「金芽」を残し、栄養と美味しさの両立を実現した健康志向の無洗米です。胚芽の基底部分が金色に輝くことから「金芽米」と名づけられました。



▲左からJA秋田おばこ 齊藤武志
代表理事組合長、松田町長、
東洋ライス株式会社 阪本哲生
代表取締役副社長



▲「夜市」のオープニングセレモニーで
あいさつをする松田町長

先月のお盆、みなさんはどう
いう風にお迎えでしたでしょうか。
県内外にお住いのご家族が久し
ぶりに帰省して、賑やかにお盆
を過ごしたというご家庭も多かつ
たものと思います。一方、九州
では大雨による被害で、お盆ど
ころではない、という方もいらつ
しゃいます。被災された方々に心
からお見舞いを申し上げます。

さて、お盆に帰省された方々は、
町の夕方6時の時報、防災行政
無線から流れる「ふるさと」を
ふるさとで聞いて、どう受け止
めたでしょうか。年代等によつて
違いがあるものと思いますが、
放送側としては「心に何らかの
和み」が生まれたことを期待し
ております。

その「ふるさと」についてですが、
改めて説明しますと、昨年度の
町の合併20周年をきっかけに、
町民とりわけ子供たちに対して、
町へのふるさと意識を深めてもら
いたい思いで選曲し、昨年4月
から放送しております。全国的
にも防災行政無線の時報に採用
されている曲です。美郷町では、
放送当初から「とても良い」とい
う評価をいただく一方、「うら寂
しい」という声もいただいております。
私としては、和らぎを感じ
る情緒的な曲であり、自身の過
去と将来を結ぶ曲でもあります
ので、「良い」と思っ
ているのですが…。

調査を実施しました。結果、約
6割の方が良い、約2割5分の方
が気にならない、約1割の方が
別のものにしてほしいと思っ
ていることが分かりました。

この結果を踏まえ、町では引
き続き「ふるさと」を放送して
まいりたいと考えております。ど
うかご理解くださいますようお
願いいたします。なお、ある方
からは「曲が1番で終わらず2
番までお願いしたい」というご要
望もいただきました。いろいろ検
討しましたが、時報の長さとし
て適切かとの観点もあり、結果
的に実現は難しいことを、紙面
を通じてお伝えしたいと思いま
す。すみません。

物事の好き嫌いについては、何
かをきっかけに変わることよく
あることです。例えば苦手だった
パクチー(野菜の一種)が、急
に好きになったとか(実は私です。
笑)。もちろんその逆もあるわけ
ですが、いずれ、好き嫌いの感
情は流動しますので、いつの日
にかみなさんからご納得いた
だける日が来るよう念じており
ます。

COLUMN
WINDS

コラム

風

ふるさと

美郷町長 松田知己